

IV-362 静岡県内における2輪型山車の分布と塩の道との関係

豊橋技術科学大学工学部 学生会員 野口 忠
同 上 正会員 平松登志樹

1 はじめに

祭礼を彩るものの一つに山車がある。静岡県には山車を引き回す祭礼が多数あり、2輪型の山車が一部の地域に集中していることは興味深い。本研究では2輪型の山車が塩の道沿いに分布していることを明らかにし、その理由を考察する。

2 静岡県内の山車

静岡県内の全自治体（74）にヒアリングした結果より、以下の山車を引き回す祭礼の特徴を述べる。

・祭礼開催時期

- 1）11月初旬から4月の初旬まで約5か月間は山車を引き回す祭礼は行われない
- 2）山車を引き回す祭礼の総数の約半数が10月に集中している

・山車の種類と台数（台数は概算）

自治体へのヒアリングで把握できた2輪型山車と4輪型山車の台数を整理すると4輪型380台、2輪型300台、合計680台となる。ヒアリングだけでは台数を把握できなかった地域もある。

3 山車の分布の特色

自治体のヒアリングだけでは、山車の正確な台数が聞き出せなかった。そこで不明な部分に関し、祭礼開催時期に現地に出向き調査した。自治体へのヒアリングとこの現地調査の結果、図1に示すように静岡県内における山車の型の分布図を作成した。図1の印は祭礼が行われる地域を代表する神社にプロットされている。図1より、2輪型山車の分布と塩の道が見事に一致することが指摘できる。

4 山車の型の分布と塩の道との関わり

2輪型の山車の分布と相良・秋葉道ルート of 塩の道が一致する理由を考える。

第1の理由

作美氏は大須賀町の山車は江戸曳山の影響を受けていると述べている[*1]。さらに、同氏にヒアリングした結果、大須賀町が影響を受けた江戸の曳山は、2輪型山車であることが分かった。一方、山本氏は森町における2輪型山車を引き回す現在の形態のお祭りは、おそらく江戸中期以降に出来たものと考えている[*2]と述べている。大須賀町と森町はともに塩の道沿いに位置している。塩の道は秋葉街道とも呼ばれ古来より重要な道として人の行き来が多かった。この塩の道沿いに2輪型山車が伝播したと思われる。

第2の理由

荷車は貢租物（たちから－田租）のような収穫物や薪炭・穀類・農産物類・農間稼品・その他日用諸物資、重い荷物等のもの、ときには人も運んだ[*3]。比較的平坦な塩の道では荷車や牛車それに馬車等を用いて塩が多量に運ばれた[*4]。従って荷車（江戸の荷車は大八車といわれた[*3]）が2輪型山車の原型だったと考えられる。現在でも森町では2輪型山車の車輪が大八車と呼ばれている[*2]。

第3の理由

2輪型山車が定着した理由として、山車を引き回す人の楽しみもあると思う。森町でみられるように、2輪型の山車は、4輪に比べて生き物のようにくねくねと動く。この蛇のような動きが引き回す人の大きな楽しみとなる。「講座・日本技術の社会史 第8巻 交通・運輸」の記述からも荷車が原型である2輪型山車を引き回す祭りのうねりの激しさが推察される。荷車の往来については音響のみでなく、橋や道を傷め、積荷による事故、また往来筋家々への災害、通行人との接触、他の交通機関との競合問題など、頻発するように

なった〔*3〕とある。岩本氏は、江戸末期、森町の祭り開催中に家々の屋根を壊してしまうほどの大喧嘩があったという記述が古文書の中にあるという〔*5〕。この記述からも祭礼の激しさがうかがえる。つまり、2輪型山車は激しい祭礼を演出する道具の一つとして受け入れられたのである。同氏は昔の道は舗装されていなく、でこぼこであったと考えられるから2輪型山車の方が4輪型よりも旋回しやすく引き回しやすかったという利点も挙げている。

5 本研究の結論

静岡県内の山車を引き回す祭礼を調査し、さらに山車の型の分布を示すことにより静岡県内全域の範囲で祭礼の現状を比較・考察し、以下の知見を得た。まず、静岡県内の山車を引き回す祭礼の特徴を明らかにした。第1番目は祭礼を開催する時期の特徴である。祭礼は4月初旬から11月初旬までの期間に開催され11月から4月までの5か月間は祭礼が行われない。また、10月に集中して祭礼が開催されることも分かった。山車を引き回す祭礼は収穫祭が多いという仮説も成立しうる。第2番目は山車の種類と台数の把握である。自治体に対するヒアリングで把握した数は4輪型380台、2輪型300台、合計680台であり、静岡県内には多くの山車があることが分かった。さらに、分布図を描くことにより、塩の道に沿って2輪型山車が分布していることを発見し、その理由を考察した。

6 今後の課題

今回は祭礼の現状を現すものとして、山車だけに止まったが、今後はお囃子の分布状況もまとめてみたい。次に、研究範囲も静岡県外にも広げたいと思う。また、森町以外の地域も祭礼の歴史的背景を調査すれば祭礼の伝播の様子もはっきりしてくると思われる。最後に、この研究を通じて祭り巡りツアーの企画など、実際に地域計画にどのように祭礼を取り入れるかということも今後の重要な課題である。

参考文献

- 〔*1〕 作美陽一、「江戸の曳山祭り」、埼玉県秩父市
- 〔*2〕 編集委員会 森の祭り祭典本部&特設祭典写真班、発行責任者 森の祭り祭典本部、(1991)、「遠州森の祭り」、印刷所(有)彩光堂印刷
- 〔*3〕代表編者 永原慶二・山口啓二、(1985)、「講座・日本技術の社会史 第8巻 交通・運輸」、発行所 株式会社 日本評論社
- 〔*4〕 発行者 有賀競、野中賢三、(1993)、「秘境はるか塩の道秋葉街道」、印刷所 印刷センター
- 〔*5〕 文・写真・編集 岩本雅志、(1991)、「遠州森の祭り屋台物語」、印刷(有)彩光堂印刷

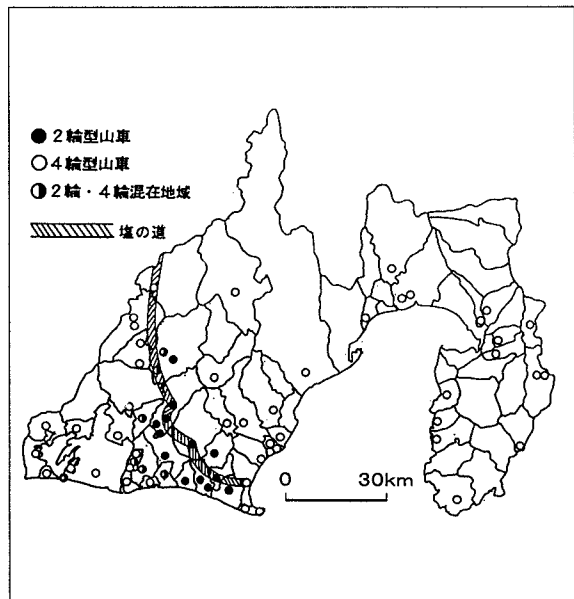


図1. 静岡県内における山車の型の分布図